

## 伏見少年野球連盟大会規則

(伏見区長杯争奪大会、伏見選手権大会、伏見教育リーグ戦、ジュニアチャンピオン大会)

1. 伏見少年野球連盟の主催する大会には、伏見少年野球連盟に所属、承認されたチームのみに出場資格を与える。 ※出場資格には連盟が承認した合同チームの出場も認めることとする。

(他行政区の招待チームは行政区団体の所属チームのみとし派遣チームとして出場すること)

2. チーム編成は、伏見少年野球連盟規則を遵守、承認されたチームで編成することとする。

同一学年で9名以上のチーム編成の出来ない場合は、二重登録を認めるが登録は13名以内とし三重登録は認めない。(合同チームの二重登録も可とするが、同一チーム以外は不可とする)

3. ベンチに入れる者は、登録された代表者、監督、コーチ、スコアラー、選手のみとする。

但し、やむを得ない理由により代理監督とする場合はメンバー表に代理と明記すること。

(代理監督は、登録された代表者、コーチに限る。)

※ユニフォーム未着用や背番号のない選手(新入部員等)、未登録の選手はベンチに入れない。

4. 試合開始30分前までに3枚(決勝戦は4枚)複写のメンバー表を本部に提出すること。

5. 前の試合が早く終了した場合、試合開始予定時刻より早く試合を開始することがある。

6. 試合開始予定時刻になってもグラウンドに来ない場合は、没収試合の宣言を行う。

7. 試合回数

### ◆1回戦～準決勝戦

A・Bの部は7回(1時間20分)とし、5回終了をもって正式試合とする。日没、降雨により正式回を終了せずに中止した場合は、ノーゲームとする。

なお、4回10点、5回以降7点以上の得点差がある場合はコールドゲームを採用する。

7回(1時間20分経過時)を終了して勝敗が決しない場合は、特別延長戦(1アウト満塁、打者継続)を2回まで行い、決しない場合は、最終メンバー9名による抽選で勝敗を決める。

ジュニアの部は5回(1時間10分)とし、3回終了をもって正式試合とする。日没、降雨により正式回を終了せずに中止した場合はノーゲームとする。

なお、3回15点、4回10点以上の得点差がある場合はコールドゲームを採用する。

5回(1時間10分経過時)終了して勝敗が最終メンバー9名による抽選で勝敗を決める。

本塁、投手板間14m、塁間21mとする。

### ◆決勝戦

Aの部では、時間制限無し7回とし勝敗が決しない場合は、特別延長戦(1アウト満塁、打者継続)を回数制限無しで行い、勝敗が決するまで行う。(コールドゲームを採用しない)

Bの部では、7回(1時間30分)とし勝敗が決しない場合は、特別延長戦(1アウト満塁、打者継続)を回数制限無しで行い、勝敗が決するまで行う。

ジュニアの部は5回(1時間20分)とし、勝敗が決しない場合は、特別延長戦(1アウト満塁、打者継続)を1回行い、それでも決しない場合は最終メンバー9名による抽選で勝敗を決める。

※伏見教育リーグ戦は、5回(1時間10分経過時)終了して勝敗が決しない場合は引分けとする。

決勝トーナメント戦は、伏見少年野球連盟大会規則に準ずる。

## 8. 投手の投球制限

A・Bの部では、1投手の投球回数を最大で7回までとする。

但し、特別延長戦に限り2回まで認める。

ジュニアの部では、1投手の投球制限を最大で3回までとする。

各部とも、投球イニングに端数が生じた時の取り扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。

## 9. タイムの回数制限

監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。同一イニングに同一投手の所へ2度目に行った場合は、投手は自動的に交代しなければならない。(伝令を使った場合も含む)

交代した投手が、他の守備位置につくことは許されるが、同一イニングに投手には戻れない。

守備側・攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とし、延長戦は、2イニングに1回とする。

(選手交代時の監督のタイムは含まない)

また、相手側チームのタイム時に選手が集まったり、伝令を送った場合はどちらのチームにも1回と数える。

10. ボークについては、A・Bの部は直ちに宣告し、ジュニアの部は、1度目は注意とし2度目より同じ内容のものであればボークを採用する。(伏見教育リーグ戦でも適用)

11. 試合中ベンチ前で全員での素振りは禁止とする。ネクストバッターのみ認めます。

12. 攻守交代時 ・フェアグラウンド内でのキャッチャーの声出し(掛け声)は初回と最終回だけにする。

・守備側チームの外野手のキャッチボールを控え選手が行う場合、ベンチ側1名とする。

・プレイボール直前まで守備側ベンチの選手が全員ライン近くに立つことを禁止とする。

13. 試合前のグラウンド内でのノックは禁止とする。(バットの使用は禁止)

14. 試合前後のベンチに出入りする際、グラウンド内を横断しての移動を禁止する。

15. 危険防止のためファウルフライを捕球後、ダッグアウト及びボールデッド場所に足を踏み入れた場合は、ファウルボールとする。

16. 金属バット、ヘルメット等はJSBBマーク入りを使用すること。

キャッチャーはマスク、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファウルカップを必ず着用すること。

打者、走者、ベースコーチはヘルメットを必ず着用すること。

17. 同一チームのプレイヤーは(監督30番、コーチ29、28番を含む)同色、同形、同意匠のユニフォーム、アンダーシャツ、ストッキング、帽子、ゴム底スパイクを着用すること。なお、代表者、スコアラーはチームの帽子を着用すること。(なお合同チームはそれぞれのユニフォームでも出場を認める)

同色、同形、同意匠のユニフォームとは、全く同じものという解釈であり、ストッキングとカラーソックスや紐靴タイプとマジックテープタイプのスパイク等の混在は認めない。

ベンチに入る選手、監督、コーチは防寒、防雨用ナイロン製アンダーシャツの着用を禁止とする。

また、試合中ベンチに入る監督、コーチ、スコアラーは、サングラス(濃い色、ミラータイプ)の着用を禁止する。

18. 試合中に選手交代する場合や指示を伝える場合、監督もしくは監督代行をするコーチは、必ず背番号を見せて球審に選手交代またはタイムを告げる。また選手に指示を伝える場合、ラインのところに選手を呼び出さず監督がグラウンド内に駆け足で入り短時間で終了すること。

19. 抗議できる者は監督(代理監督含む)と当該選手のみとする。抗議についてはルール適用を誤った時だけであり、審判のアグリエメントに関する抗議について異議を唱えることは許されない。

20. どんな方法であろうとも、相手チームのプレーヤー及び審判員に対し悪口、暴言を吐くことは許されない。  
また、自チームのプレーヤーに対しても聞き苦しいスポーツマンシップに反する暴言、行為も許されない。  
試合中に暴力行為があった場合、その当事者は球審により退場処分とし、試合終了まで本部で待機する。
21. 応援団の行動については、当該チームの代表者、監督が一切の責任を負うこととする。
22. かかしボールは禁止する。(審判員が注意する)
23. ベンチ内は禁煙(試合中ユニフォームを着た者についてはベンチ外でも禁煙とする)
24. 審判について、1回戦から準決勝戦前までは参加チームに塁審の割当があります。  
但し、各部とも準決勝戦、決勝戦については、球審・塁審とも本部審判員が行う。  
審判員の服装は、伏見少年野球連盟指定服(黒ポロシャツ、グレーズボン、審判帽、審判用黒スパイクまたは黒一色の運動靴)を必ず着用すること。また、審判員は黒色ベルトを必ず着用すること。  
他行政区の参加チームは、上(長袖白カッターシャツ)下(紺色審判ズボン)、審判帽、靴は黒一色を着用すること。  
但し、寒い場合は紺か黒のウインドブレーカーを着用しても良い。作業用ズボン、トレパン、ジャージ、Tシャツ等は不可とし、審判靴についてはプレイヤースパイクは不可とする。
25. 落雷の危険がある場合は、審判員もしくは大会本部の判断で試合を中断し避難する場合がある。
26. その他競技規則については2014年公認野球規則、2014年全日本軟式野球連盟競技者必携及びグラウンドルールを適用する。

〈 以下余白 〉

以上の事項をチームに徹底して頂き、試合時間短縮、マナー向上等、伏見少年野球連盟のレベルアップにご協力くださいますよう宜しくお願いします。

伏見少年野球連盟